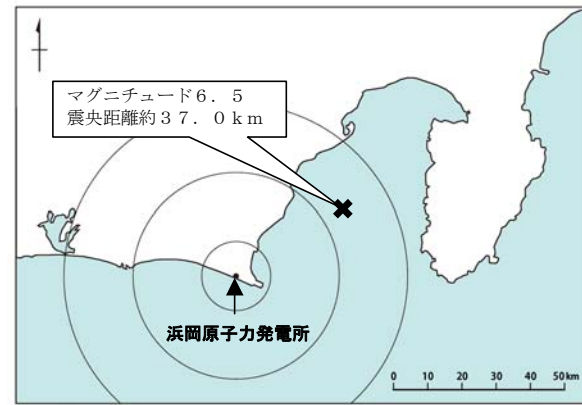


解説資料

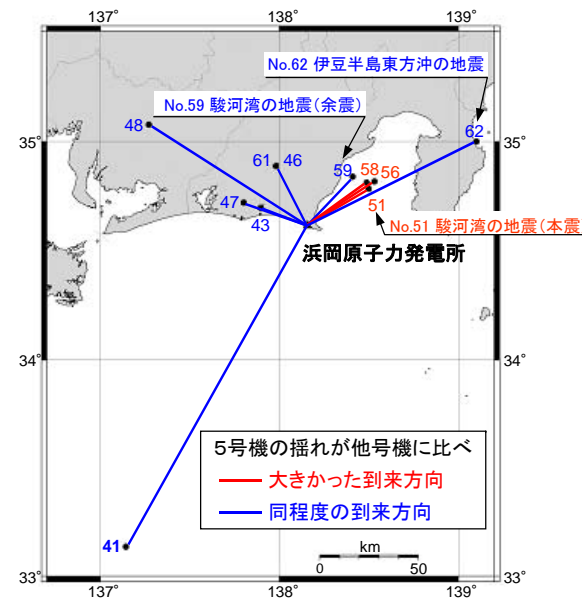
●駿河湾の地震

発生日時:2009年8月11日5時7分
 地震諸元(気象庁)/規模:マグニチュード6.5/震央位置:北緯34度47.1分 東経138度29.9分/震源深さ:23km/発震機構:横ずれ成分を持つ逆断層型(圧力軸は北北東-南南西方向)
 浜岡原子力発電所との距離/震央距離:37.0km/震源距離:43.5km



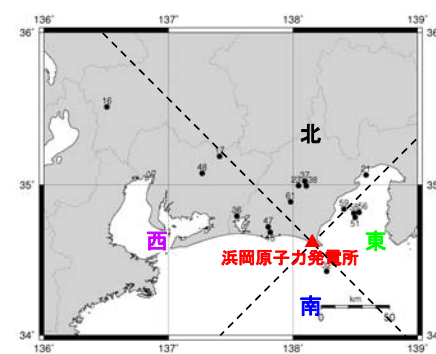
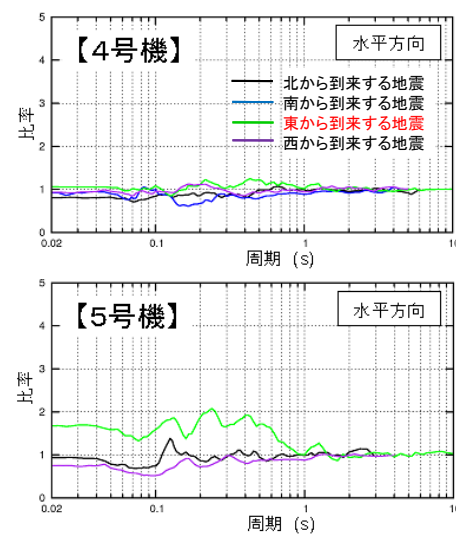
●地震波到来方向毎の5号機の揺れ

駿河湾の地震(本震)では、5号機が他号機に比べ大きな揺れとなっていました。やや離れた地震や他方向から到来する地震波では、5号機が他号機と同程度の揺れとなっていました。



●地震波到来方向毎の3~5号機の揺れ

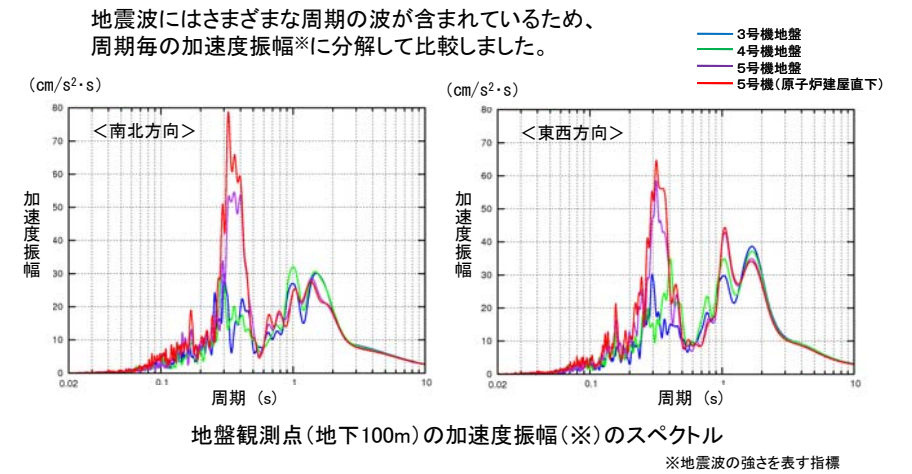
3号機の地盤の揺れに対する4号機および5号機の地盤の揺れについて比較した結果、5号機は東から到来する地震の揺れが約2倍となっています。



※比率(4号機): 4号機地盤と3号機地盤の加速度応答スペクトル値の比
 ※比率(5号機): 5号機地盤と3号機地盤の加速度応答スペクトル値の比

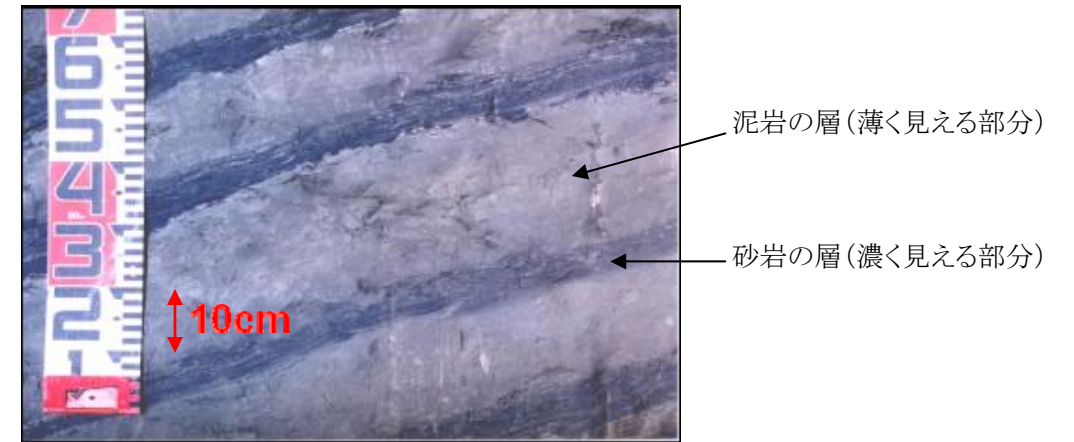
●駿河湾の地震(本震)の振動特性

駿河湾の地震(本震)では、5号機は他号機に比べ、周期0.3~0.5秒付近の狭帯域で増幅傾向がみられますが、0.5秒より長周期側では同程度の揺れとなっています。



●相良層

新第三紀中新世後期から鮮新世前期(今から概ね数百万年から1千万年前)に堆積した泥岩・砂岩の互層です。



相良層の写真(表層付近)

●反射法地震探査

敷地内および敷地近傍の陸域・海域で、人工的な振動を発生させ、海底面や地中から戻ってきた弾性波を受振し、海底の状況や地下構造特性を確認する方法です。

●基準地震動 S_1 , S_2

旧指針に基づいて策定し、原子炉施設の耐震設計に用いる地震動のことです。